

微弾性
下地調整材
【一材型】

フィラーカーボン



特 長

- セメント系に見られない微弾性
- 絶妙の吸水コントロール
- カーボンファイバー配合による耐ひび割れ性
- 上塗材を選ばない中性下地
- 塗りやすい作業性の良さ
- 微粒子配合により実現した平滑性
- 速やかな乾燥速度
- けいそう土配合による呼吸性
- 各種下地に対する優れた付着性
- アク止め剤、サビ止め剤配合

荷 姿

4.5kg紙袋入り
(1梱包2袋セット)

適 応 下 地

【内装の場合】

- 石膏ボード
- 石膏プラスター、モルタル、軽量モルタル、中塗土
- コンクリート
- ALCパネル
- PCパネル
- 合板
- 凹凸の少ない仕上材 (しっくい、吹付材各種、砂壁、聚楽壁、繊維壁、水性塗料等)

注 意

- 下地の埃、油分等の汚れは取り除いてから施工してください。
- 弱っている下地は剥離の原因となりやすいため、補強あるいは剥がすなど適切な処理を行ってください。
- アクがひどい場合は、あらかじめ「P-プライマー」でアク止め処理を行ってください。

■適応上塗材

しっくい、吹付材各種、砂壁、聚楽壁、繊維壁

- ※タイル、石材等の重量物や溶剤系塗料の施工は避けてください。
- ※合板下地の場合は、アクのしみ出しや吸水変形によるクラックが起りやすいため、アルカリ性の上塗材や硬い上塗材の施工は避けてください。

【外装の場合】

- モルタル、軽量モルタル、中塗土
- コンクリート
- ALCパネル
- PCパネル
- 凹凸の少ない仕上材 (しっくい、吹付材各種、水性塗料等)

注 意

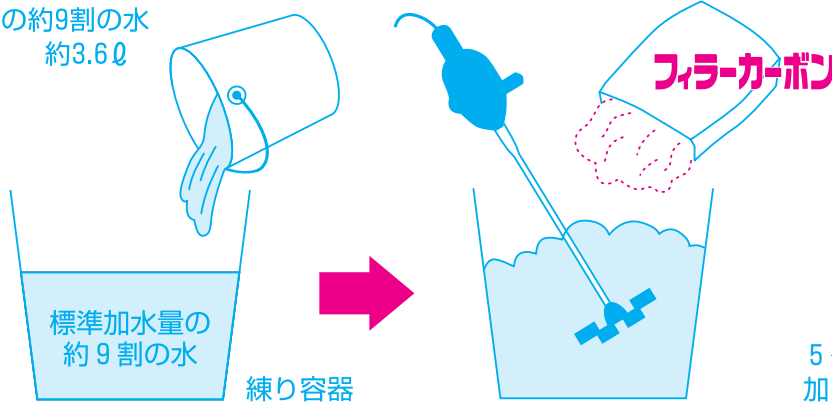
- 下地の埃、油分等の汚れは取り除いてから施工してください。
- 弱っている下地は剥離の原因となりやすいため、補強あるいは剥がすなど適切な処理を行ってください。
- アクがひどい場合は、あらかじめ「P-プライマー」でアク止め処理を行ってください。
- 撥水性のある下地は、十分な付着性が得られない場合がありますので、事前にご確認ください。

■適応上塗材

しっくい、吹付材各種

- ※タイル、石材等の重量物や溶剤系塗料の施工は避けてください。

●フィラーカーボンの練り方

標準加水量の約9割の水
約3.6ℓ

攪拌機は、東芝製ベビーマックスBMP-150B等の高速ミキサーを用いると、フィラーカーボンが良く分散します。

5～10分練り置き

5～10分練り置き後、残りの水を加えて、粘度を調整してください。

施工方法

- 不陸を取るように「フィラーカーボン」を塗り付けます。2～3mm程度の不陸がある場合は一度に厚塗りせず、標準加水量の6～7割程度の水量で硬練りしたものを塗り重ねてください。さらに不陸が大きい場合は、予めモルタル等で不陸を取ってください。
- 1回目乾燥してから更に「フィラーカーボン」を塗り重ね、不陸を取り、波を消します。水が引いてから薄手のコテで軽く押えますと、滑らかな仕上がりになります。またサンディング性能は良いので、必要な場合は、乾燥後#240～#400程度のペーパーでサンディングしてください。
※薄塗りの仕上げ材を施工する場合は、下地を丁寧に作ってください。

施工上の注意

- 下地の埃・レイトランス・油分等の汚れは取り除いてください。
- 練り水は、清水を用いてください。
- 練り容器は、不純物の付着していない、きれいに洗ったものを使ってください。
- 5℃以下での施工は避けてください。
- 使用した道具類は速やかに水洗いしてください。
- タイル、石材等の重量物の施工はしないでください。
- 「P-プライマー」や塗料等、吸水性のない下地に「フィラーカーボン」を塗付した場合、上塗材に膨れが出やすくなります。上塗材は2回塗りとし、下塗りに出た膨れをコテで押さえた後、2回目を塗り重ねてください。
- 24時間以内に降雨が予想される場合は、雨養生を行ってください。

■性能試験結果 (JIS A 6916 建築用下地調整塗材Eに準ずる)

試験項目	試験結果	規格
付着強さ	標準養生	1.1N/mm ²
	浸水後	0.9N/mm ²
初期乾燥によるひび割れ抵抗性	ひび割れ無し	ひび割れが無いこと
耐衝撃性	ひび割れ、はがれ無し	ひび割れおよびはがれが無いこと
仕上材が複層仕上塗材の場合の耐久性	0.5N/mm ² 割れ、はがれ無し	割れ、膨れおよび、はがれがなく、付着強さが0.5N/mm ² 以上であること
吸水性	0.6g	2g以下

■フィラーカーボンの標準仕様

名称	フィラーカーボン
正味質量	4.5kg/紙袋
標準加水量	4ℓ
標準塗り厚	約0.8mm
標準所要量	4.5kg(袋)/10～12m ²
有効期間	2年間
梱包	2袋セット

⚠️ 取り扱い上の注意

- 材料を誤って飲み込んだ場合は、直ちに口、鼻を良く洗浄し、異常がある場合は医療機関で治療を受けてください。目に入った場合は、15分間以上清浄な水で洗浄し、違和感や痛みが残る場合は、眼科で治療を受けてください。皮膚に付いた場合は、大量の水で洗い流してください。
- 残材、洗い水等は、河川、池、下水、地下水などを汚染する可能性のある場所には捨てないでください。
- 袋の処理は産業廃棄物業者に依頼してください。
- 保管する場合は、室内の湿気の少ない所でパレットを敷いて、床面より浮かして保管してください。